

## 平成25年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【研修レポート】

- 1 実践地区 : 檜山地区
- 2 研修者氏名 : 谷口光伸 (奥尻町立青苗小学校)
- 3 研修実施日 : 平成26年1月30日(木)～31日(金)
- 4 研修先 : 国立オリンピック記念青少年総合センター
- 5 研修目的 : 平成25年度国立特別支援教育総合研究所セミナーに参加
- 6 キーワード : インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育の推進



奥尻町立青苗小学校

### 1 はじめに

檜山校長会小学校部会では、特別支援教育に関わるプロジェクト部会を立ち上げ研究活動を進め、本年度は「檜山校長会教育研究上ノ国大会」及び「道特協経営研究渡島大会」において、提言発表を致しました。平成26年度は、本年度の研究の成果と課題を受け第57回道小教育研究日高大会において第12分科会『自立』において提言発表を行う予定になっております。また檜山地区は、平成27～28年度も道小教育研究大会第12分科会『自立』及び、平成29年度の道特協の提言発表を依頼されております。

そこで、今年度、地区活性化事業の道外研修という貴重な機会を得ましたので、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(特総研)セミナー「インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育の推進」を研修してまいりました。以下、その概要をご紹介します。報告と致します。

### 2 平成25年度国立特別支援教育総合研究所セミナー概要

#### (1) 行政説明「特別支援教育行政の現状と課題」 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長 大山 真未 氏

##### ① 特別支援教育の現状

- ・ 特別支援教育の対象の概念図を用いて、義務教育段階の全児童生徒数における特別支援学校、特別支援学級、通級による指導を受けている在籍児童生徒数の割合は2.90%
- ・ 「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果」を基に特別支援教育の現状説明

##### ② 障害者の権利に関する条約への対応 ～これまでの経緯～

- ・ 平成26年1月20日：国連事務総長に対し「障害者の権利に関する条約」の批准書の寄託
- ・ 平成26年2月19日：わが国において「障害者の権利に関する条約」の発効

##### ○ 障害者基本法の改正(平成23年8月5日)について

- ・ 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)の概要説明

##### ○ インクルーシブ教育システムについて

- ・ 中教審初等中等教育分科会報告(平成24年7月23日)よりインクルーシブ教育システム
- ・ 学校教育法施行令の一部を改正する政令(平成25年8月26日)の概要説明
- ・ 基本的環境整備と合理的配慮及び、合理的配慮の観点ごとの障害種別の例示

##### ③ 平成26年度特別支援教育関係予算など

- ・ 平成25年度予算額が99億円、平成26年度予算額131億円 30%以上の増額予算

#### (2) セッション1〈基調講演・シンポジウム〉

##### 【基調講演】インクルーシブ教育システム構築に向けた学校・地域の取組～みんなが資源 みんなで支援～

筑波大学副学長/附属学校教育局長 石隈 利紀 氏

インクルーシブ教育システム構築に向けて、学校において、どのような資源を組み合わせ、連携を進めていくことができるのか。子どもの学校生活での情報を収集し、資源を見付け、つないでいくことについて、学校心理学の立場から、3段階の心理教育的援助サービス、心理教育的援助サービスの3層のシステム、そして学校・家庭・地域の連携について講演がなされました。

## 【シンポジウム】

基調講演での様々な連携やサポート体制をどのように作り実践していくのかといった話題を受けて、各学校の取組や地域でどう連携を進め、実践しているかについて焦点化されました。

司 会 柘植 雅義氏(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 指定討論者 石隈 利紀氏(筑波大学副学長/附属学校教育局教育長)

シンポジスト 本道利枝子氏(青森県八戸市立下長中学校教諭) 樋口 陽子氏(北九州市立小倉南特別支援学校主幹教諭)

シンポジスト 田中 裕一氏(兵庫県教育委員会事務局特別支援教育課指導主事) 内田 照雄氏(日本自閉症協会理事/神奈川県自閉症協会会長)

## (3)セッション2〈特総研の研究・トピック紹介〉

【研究経過報告】「デジタル教科書・教材の試作を通じたガイドラインの検証」「特別支援学校(視覚障害)における教材・教具の活用及び情報の共有化に関する研究」「特別支援学校(肢体不自由)のAC・ICT活用の促進に関する研究」などの説明がありました。

【事業・調査報告】「インクルーシブ教育システム構築支援データベース作成の経過と現状」「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」のフォローアップ調査の説明がありました。

## (4)セッション3〈研究成果報告〉(分科会)

### 第1分科会：特別支援学校及び特別支援学級の教育課程の現状と課題

分科会は第1分科会に参加しました。特別支援学級に絞って特総研が平成24年度に実施した全国都道府県教育委員会等調査結果(回収率100%)における現状と課題、山形県、福井県、長崎県における小・中学校の特別支援学級を対象に「特別の教育課程」の編成と実施についての課題について報告致します。

#### ①教育課程編成に関する研修や手引きの作成

〈現状〉ア)手引き等の作成(50%) イ)研修の設定(ほぼ100%)

〈課題〉ア)学級担任の専門性の確保・向上・維持 イ)障害の程度や学年等が異なる児童生徒が在籍する特別支援学級の教育課程編成の在り方 ウ)同一学年に障害の程度が異なる児童生徒が在籍する特別支援学級の教育課程の編成の在り方 エ)特別支援学級に在籍する児童生徒における交流及び共同学習の教育課程上の位置付け

#### ②教育課程における課題

ア)特別支援学級における教育課程の内容・方法の課題

- ・自立活動をどのように組み立てたらよいかわからない
- ・教育課程を編成する際、どこに視点、重点を置いたらよいか分からない

イ)特別支援学級における教育課程の組織・運営面の課題

- ・教育課程編成の際、校内で特別支援教育の教員以外の教員との協議ができない
- ・保護者の要望に、どのように対応して教育課程を編成したらよいかわからない

## 3 終わりに

セミナーの当初の定員は700名でした。会場となった国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟大ホールの収容人数は800名です。しかし実際には、定員よりはるかに多く方がセミナーに参加しました。申込受付は先着順で行われ、受付番号800番(ちなみに私は45番)以上方は、小ホールにて映像視聴でした。参加者の多さと会場の熱気に、特別支援教育やインクルーシブ教育システム構築に向けた取組への関心の高さが感じられる2日間となりました。会場は、写真撮影も録音も一切禁止でしたので、掲載写真もありませんがご勘弁ください。なお、特活研ではメールマガジンへの登録を呼びかけております。3月号より新連載「インクルーシブ教育システム構築に向けて」が開始予定です。登録は<http://www.nise.go.jp/magazine/>からです。